



機械科通信

酒田光陵高校機械科

第21号

平成27年12月 9日

◆伊勢陽平君！山形大学（工学部）合格！！

私が高校を選択する際に考えたことは、自分の好きな野球に打ち込みたいということと、高校卒業後は県内に残って働きたいということでした。また、金属を加工して物を作るといったことに興味があり、これらすべてを叶えることができるのは機械科しかないと考えました。そして、兄が旧酒田工業高校の機械科を卒業していたこともきっかけとなり光陵高校への進学を決めました。

高校入学後は、自分のやりたいことである野球に目一杯打ち込むことができました。光陵高校では、部活動に集中できる環境があり、そして同じような目標を持った仲間に出会うことができました。そういった中で、甲子園出場は達成できませんでしたが、公立校として多くの私立高校を破ってベスト4という結果を残すことができました。野球部の練習は長時間で厳しいものでしたが、仲間とともにそれを乗り越えて結果を残した時の喜びはとても大きく、かけがえのない時間を過ごせたと感じています。

そして、機械科では様々な考えを持った仲間に出会えました。自分と同じように部活動に打ち込む者、資格取得のために多くの時間をかける者、部活動をしながら自分の趣味や特技などの個性を磨く者など、自分にはないものを持った仲間が多くいました。また、機械科の先生方はとてもユニークな方が多く、工業的な価値観に加えて、人としてどうあるべきなのかまで幅広く教えていただくことができました。そういった環境で学校生活を送ることで人として成長できたと考えています。

進路選択では、長い時間をかけて悩みました。私は高校入学時は卒業後すぐに就職したいと考えていました。しかし、工業系の授業を受けていく中でもっと高いレベルの工学を学びたいと思うようになっていきました。機械設計や機械工作といった勉強、実習での機械加工を通



して金属材料に興味を持ちました。そこで、先生方からの勧めもあり、高校卒業後すぐに就職するのではなく、大学で豊富な知識を身に着けることによって、より地域に貢献できるのではないかと考え、大学に行くことを決意しました。また、私は県内に就職したいと考えていたため県内の情報がよくわかり、なおかつ高度な研究が行われている山形大学を志望しました。

山形大学へはAO入試という制度を利用して受験しました。これは、将来山形県内で活躍したいという人材を山形県内の高校から募集する制度で、私の意思と合致していました。入試方法は一次でレポート、二次でプレゼンテーションと面接といった流れでした。どれも経験のないことだったので担当の先生と毎日のように放課後居残り、練習しました。本番の試験は難しい課題が出てとても緊張しましたが、練習の甲斐があって無事に合格することができました。

私は光陵高校の機械科に入学したからこそ、部活動に打ち込める充実した毎日をおくりながらも、理想的な進路を実現することができたのだと考えています。将来、山形そして酒田に貢献できるような人材になりたいと考えています。そのために、山形大学でも様々なことに挑戦し、成長できるように日々努力していきたいと思っています。

◆山形大学（工学部）のAO入試って何？

山形大学に限らず、大学入試にはたくさんの形態があります。センター試験利用、一般入試、推薦入試、AO入試など。さらに私立大学に関しては独自の入試形態をとっている学校も多いようです。

今回合格した山形大学工学部のAO入試は次のようなものになります。

山形県内の高等学校等を3月卒業見込みの方等（現役）で、山形県内に就職を希望し、かつ、合格した場合入学を確約できる方で所定の要件を満たした方を対象とした入試です。選抜方法は、第1次選抜：レポート、第2次選抜：プレゼンテーション及び面接を行います。出願前に開催するAO入試Ⅱ説明会へ参加し、エントリー（仮登録）を行うことが出願の条件となっています。

この制度を利用し、工業科では毎年合格者がでていきます！

